| 学校番号 | 3035 |
|---|---|

# 令和８年度　地理歴史科

| 教科 | 地歴 | 科目 | 日本史探究 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 『日本史探究』（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 『図説日本史通覧』（帝国書院）<br>『新日本史研究ノート[標準編]』（啓隆社）<br>『詳録新日本史史料集成』（第一学習社） | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日本の社会の枠組みの変遷と、各時代の特徴を理解しよう。
・理解の出発点として、各時代の歴史的事象に「なぜ」の視点を持とう。
・世界史（特に東アジア史）の動きのなかで、日本史が展開されていく視点を持ち、現在の日本の在り方を考えよう。
・授業の前に教科書を読み（予習）、集中して授業を受けて学習内容を理解する（授業）、次に授業プリントを参照しながら教科書を何度もじっくり読みこみ、学習内容を確認・理解する（復習）。この予習→授業→復習のリズムを確立させること。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】
・日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や 年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】
・日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、日本の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
・博物館，図書館，公文書館や資料館等の果たす役割やそこに展示・保存されている資料，地域の遺跡，景観や無形文化財などが，これまでどのように受け継がれてきたかなどの視点に着目し，「歴史資料や遺構の保存・保全などの努力が図られていることに気付く」ことなどを通して，文化財保護への関心を高め，地域の文化遺産を尊重する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から日本の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 | 日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 | 日本の歴史の変遷に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、自ら課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、文化及び文化財の継承と保護の重要性についての理解を培う。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 前期 | 日本文化のあけぼの | ・文化の始まり<br>・農耕社会の成立<br>・古墳文化の展開 | a:日本列島における原始・古代社会の成立と変遷を、自然環境の変化や大陸との影響を踏まえて理解している。また、文献資料や考古資料から得られる情報を読み取ることができる。<br>b:設定された主題について、諸資料から得られる情報をもとに、相互の関連・類似点や相違点、次の時代とのつながりに着目しつつ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。<br>c: 原始社会・農耕社会・ヤマト政権について、成立過程や変遷・特徴を明らかにしようとしている。 | 定期考査<br>ワークシート | 定期考査<br>ワークシート<br>授業内討論・発表等 | ワークシート<br>提出課題<br>授業内討論・発表等<br>授業態度 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 律令国家の形成 | ・飛鳥の朝廷<br>・律令国家への道<br>・平城京の時代<br>・律令国家の文化 | a:律令国家の在り方と、仏教文化の展開について、国際環境の変化を踏まえて理解している。また、文献資料や考古資料から得られる情報を読み取ることができる。<br>b:設定された主題について、諸資料から得られる情報をもとに、相互の関連・類似点や相違点、次の時代とのつながりに着目しつつ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。<br>c:律令国家の形成・特徴・推移と、仏教文化の特徴や展開を踏まえ、古代国家形成期に関する課題を主体的に追究しようとしている。 | 定期考査<br>ワークシート | 定期考査<br>ワークシート<br>授業内討論・発表等 | ワークシート<br>提出課題<br>授業内討論・発表等<br>授業態度 |
| 前期 | 貴族政治の展開 | ・律令国家の変容<br>・摂関政治<br>・国風文化<br>・地方政治の展開と武士 | a:藤原氏の権力掌握、仏教文化の展開と浄土信仰の発生について、国際環境の変化を踏まえて理解している。また、諸資料から得られる情報を読み取ることができる。<br>b:設定された主題について、諸資料から得られる情報をもとに、相互の関連・類似点や相違点、次の時代とのつながりに着目しつつ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。<br>c:古代社会の成熟・変遷と地方諸勢力の台頭を踏まえ、中世社会の成立とのつながりを見出そうとしている。 | 定期考査<br>ワークシート | 定期考査<br>ワークシート<br>授業内討論・発表等 | ワークシート<br>提出課題<br>授業内討論・発表等<br>授業態度 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 後<br>期 | 中世社会の成立 | ・院政の始まり<br>・院政と平氏政権<br>・鎌倉幕府の成立<br>・武士の社会<br>・モンゴル襲来と幕府の衰退<br>・鎌倉文化 | a：中世社会と武家政権の在り方や、仏教の新傾向・貨幣経済の浸透について、国際環境の変化を踏まえて理解している。また、諸資料から得られる情報を読み取ることができる。<br>b：設定された主題について、諸資料から得られる情報をもとに、相互の関連・類似点や相違点、次の時代とのつながりに着目しつつ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。<br>c：古代社会との比較などにより、中世社会の特徴について考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。 | 定期考査<br>ワークシート | 定期考査<br>ワークシート<br>授業内討論・発表等 | ワークシート<br>提出課題<br>授業内討論・発表等<br>授業態度 |
| | 中世社会の成立 | ・院政の始まり<br>・院政と平氏政権<br>・鎌倉幕府の成立<br>・武士の社会<br>・モンゴル襲来と幕府の衰退<br>・鎌倉文化 | a：中世社会と武家政権の在り方や、仏教の新傾向・貨幣経済の浸透について、国際環境の変化を踏まえて理解している。また、諸資料から得られる情報を読み取ることができる。<br>b：設定された主題について、諸資料から得られる情報をもとに、相互の関連・類似点や相違点、次の時代とのつながりに着目しつつ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。<br>c：古代社会との比較などにより、中世社会の特徴について考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。 | 定期考査<br>ワークシート | 定期考査<br>ワークシート<br>授業内討論・発表等 | ワークシート<br>提出課題<br>授業内討論・発表等<br>授業態度 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 武家社会の成長 | ・室町幕府の成立<br>・幕府の衰退と庶民の台頭<br>・室町文化<br>・戦国大名の登場 | a:武家政権の支配の進展と日本諸地域の動向、諸産業の発達と庶民の台頭がもたらす社会の変化について、国際環境の変化を踏まえて理解している。また、諸資料から得られる情報を読み取ることができる。<br>b:設定された主題について、諸資料から得られる情報をもとに、相互の関連・類似点や相違点、次の時代とのつながりに着目しつつ、多面的・多角的に考察し、表現することができる。<br>c:諸地域における支配の分立、庶民の自治運営、宗教と人々の交わりや文化の変容を踏まえ、近世社会とのつながりを見出そうとしている。 | 定期考査<br>ワークシート | 定期考査<br>ワークシート<br>授業内討論・発表等 | ワークシート<br>提出課題<br>授業内討論・発表等<br>授業態度 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度